

あきたの 地域医療通信

2008年9月 第2号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策推進チーム



秋田県厚生連医師充足対策委員会委員長である、秋田組合総合病院坂本哲也名誉院長から、医師確保対策についてお話をお聞きしました。

Q 臨床研修医の応募数を増やすためには？

A 魅力ある指導医がいる病院は人気があります。そのため、全国的に有名な指導医を招くことも有効です。研修医への待遇面も重要です。病院でも、研修医を他の医師と同じ扱いにするのではなく、研修に専念させる、徹底的に学ばせるという姿勢を持つことです。そのような情報はすぐ広まり、翌年の研修医にも繋がっていくものです。

秋田県では指導医のレベルアップの講習会等が多く開催され、これからの医療を担っていく医師を育てるという意気込みを持っています。県外からも多くの研修医に来ていただきたいと思います。

Q 研修医を県内に定着させるためには？

A やはり指導医の資質が重要であり、医師としての技術的な面はもちろんのこと、研修医との関係をうまく築いていくことが大きいと思います。指導医との感情的なしこりが生じて離れて行ってしまう研修医もいるため、周りがカバーして関係を修復するような配慮も必要です。またパラメディカルスタッフがきちんとしていることも大きな要素です。

どこの病院も研修医を引き留めたくて、全てを自分の病院で行おうとしますが、秋田大学と病院の後期研修システムを統一して、大学とのローテーションを行うなど、選択の幅を広げ柔軟な対応をすることが、病院への信頼感にもなります。

Q 出産等にともない離職する女性医師の状況は？

A 秋田組合総合病院の場合、現在15名の女性医師（研修医含む）が勤務していて、女性医師の割合が19%と高い（県平均14%）です。子育て中の医師は、フレックスタイムを導入していて、育休中の医師は1名います。

産休、育休を機に常勤医をやめる人もいますが、その後、開業医のもとで働いている場合が多く、全く離職というケースはそれほど多くないと思われます。都会と比べ、秋田は親の協力を得て仕事を続けている人が多いです。



Q 女性医師が継続して働けるためには？

A 労働条件、職場環境の整備はもちろんです、それを十分にするのは難しい面もあるので、まずは上に立つ人ができるだけ配慮することが必要です。

診療科にもよりますが、当直の免除、緊急呼び出しのある入院患者を受け持たない等の環境を整えたり、診療科ごとに女性をまとめるというのも一つの案です。例えば麻酔科であれば、手術の時間が決まっています、分担がしやすいと思います。自分だけではないという安心感を持つことや、同性のカバーが得られることで働きやすくなります。

Q 女性医師が再就職するためには？

A 復帰しやすい環境を作ることが必要です。

志を持って医師となったのですから、その思いを全うしてもらうため、一度離職しても「必要とされている」ことを伝えて、職場復帰につながるような後押しをしていくことが必要です。

働く気持ちがあっても離職して何年か経過したり、病院との関わりが無いような場合は、自分から動くことは勇気のいることであり、支援する窓口があれば、もっと女性医師の復職が増えるだろうと思います。

Q 秋田県の地域医療の特色は？

A 地域医療と救急医療が確立されています。県内各医

療圏の中核病院は同じような医療レベルを保ち、開業医との連携も図られています。県南、県北での医師不足の問題はありますが、たらい回しや救命救急での問題は生じていません。医療が地域にしっかり定着しているということが、秋田の医療の強みでもあります。そのことは当然のことで、特別PRするようなことではないという感覚がありますが、むしろ強調して、積極的に秋田の医療を知ってもらう努力をして欲しいと思います。

再就職支援研修 女性医師

出産・育児などにより、診療業務に従事していない女性医師の方を対象に、復職のための研修を実施します。研修者は随時募集しています。

研修対象者

現在、医師の業務に従事していない女性医師で、研修終了後、県内の医療機関で勤務しようとする方。

研修の内容

診療業務に復帰するために必要な知識・技術に関する研修であり、研修希望者の要望等を考慮して、オーダーメイドの研修カリキュラムを実施します。

研修の時期・期間

県、研修先の医療機関、研修希望者の3者で相談の上、平成20年度内においてその方に合った時期、期間を設定します。

※研修を受けるための費用は、無料です。

★研修を希望される医師の皆さん、ご連絡ください★

E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp

Tel. 018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策推進チーム
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

夢 実現・ドクターセミナー 病院一日体験

医 師を目指そうとする若者を増やすため、高校生を対象とした病院一日体験（夢実現・ドクターセミナー）を県内3病院で開催しました。

先生方による講話や診察室、救急センター等の院内見学、AED講習、ギプス固定実習等の体験学習を行い働く場としての、病院を体験してもらいました。

- 7月31日 秋田組合総合病院 参加人数12人
- 7月31日 大館市立総合病院 参加人数9人
- 8月8日 平鹿総合病院 参加人数14人



秋田組合総合病院



大館市立総合病院



平鹿総合病院

病院合同説明会・ 医学生との懇談会開催

7/17に秋田県臨床研修協議会と社団法人秋田県病院協会との共催で、『病院合同説明会・医学生との懇談会』を開催しました。

臨床研修病院を含む県内19施設による病院紹介とその後は立食形式による懇談会を実施しました。

当日は57名の秋田大学の学生の皆さんに参加いただきました。



秋田県職員医師募集のお知らせ

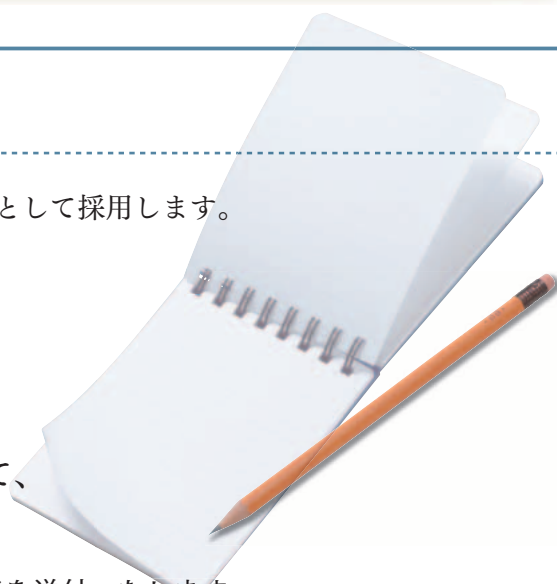
秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。
採用人数は5人です。

勤務期間は、4年間で1単位

- 3年間は県内の自治体病院等に勤務
- 残り1年間は希望する国内外の医療・研究施設において、有給の研修・研究期間とすることが可能

ご連絡いただければ、直ちに、申込書類一式を送付いたします。

<http://www.pref.akita.lg.jp>（美の国あきたネット→便利ツール→県職員医師募集）





平鹿総合病院

〒013-8610 横手市前郷字ハツロ3番1
tel 0182-32-5121

当院は秋田県厚生農業協同組合連合会の一員として、日本赤十字や済生会病院と同様に公的病院です。平成19年4月にJR横手駅より約1km西に新築移転し、586床の地域中核病院として、この地域に必要な医療ニーズに応えるべく common diseaseはもとより在宅医療から三次救急まで、また、小児救急や周産期母子医療、健康診断など幅広くかつ高度の医療・保健福祉活動を行っています。多くの分野で横手地区のみならず、北の大仙・仙北地域や南の湯沢・雄勝地域も医療圏におさめ、秋田県南のセンター病院として機能しています。〔(指定)救急告示病院、へ

き地医療拠点病院、臨床研修病院、外国人医師修練指定病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター〕

当院は昭和43年以来、内科・外科を中心に毎年5～10人の研修医を教育してきました（平成20年度までに284人：7人／年）。昭和57年には研修指定病院、平成16年より単独型臨床研修病院の指定を受けています。病院全体が教育を核にしながら成長しようという姿勢で研修医教育を行っており、数多くの人材を輩出しております。



指導医メッセージ

「研修医への思い」

大館市立総合病院
副院長 館岡 博 先生



単独型の研修病院としての立ち上げはH17年度のマッチング終了後でしたが1名の研修医を迎え、現在1年目3名、2年目2名の研修医がおり、より良い研修体制を作るべく共に研鑽している所です。

また当院常勤医の7割が指導医講習会を受講し、研修制度に対する理解も深く、熱い指導を提供出来ると思っております。

多くの診療科を短時間で変わるため、自分の拠り所を持ちにくい環境かもしれません。その為当院ではメンター制度を取り入れ、研修医一人一人の思いを大事にしたいと思っています。

そして当院での研修経験が将来どこに行っても研修医一人一人にとって当院が心の故郷となってくればと思っています。この2年間の研修は将来への知的、技術的財産作りの貴重な時間です。そんな大切な時期を研修医の皆様と共有出来る喜びと共に学べる励みを胸に、そしてあんな先輩と出会って良かったと思える指導者でありたいと思っています。

… お問い合わせ先 …

E-mail : ishikakuho @ pref.akita.lg.jp Tel.018 - 860 - 1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策推進チーム 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号